

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年	2	選択
担当教員			
萩原 豪			
C (商学部)	L (基礎科目)	NE (自然と環境)	102 (基礎・入門科目)

授業のねらい（概要）	近年、地球温暖化問題や、CO2（二酸化炭素）の排出を抑制しよう、という動きがあることはいろいろな場所で取り上げられている。地球温暖化問題とCO2の関係について知っている人は多いと思うが、これが私たちの何気ない日常生活やライフスタイルに大きく起因していることは、普段あまり意識していないだろう。石油に代表される資源やエネルギーを使うことによって、私たちの生活は成り立っているが、このままでは地球は持続不可能になることは自明である。この状態を回避するべく、私たちは次世代のために「持続可能な社会」を構築していく必要がある。 本講義では現代社会において環境問題に対処していくことの重要性について、いわゆる石油や原子力などのエネルギー問題だけではなく、水資源や食資源などにも着目し、「持続可能な社会の構築」という視点から考えていく。そして、身近なモノやコトを通じて「持続可能な社会」に対する知識・認識の共有化を行っていき、国際社会が模索している「持続可能な社会」の在り方について受講生と一緒に考えていく。そのため、ワークショップ形式で受講生がお互いに考え学んでいくスタイルをとる。
授業計画	第1回 【遠隔】ガイダンス（授業の運営方法説明） 予習（時間）：シラバスの確認および授業テーマについて情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第2回 【遠隔】公害とは何か 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第3回 【遠隔】公害から地球環境問題へ 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第4回 【遠隔】地球温暖化（気候変動）とは何か 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第5回 【課題】「持続可能な開発」と「持続可能な社会」 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第6回 資源・エネルギー問題の現状と課題（1） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第7回 【課題】資源・エネルギー問題の現状と課題（2） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第8回 身近なモノやコトから考える環境問題（1） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第9回 身近なモノやコトから考える環境問題（2） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第10回 【課題】身近なモノやコトから考える環境問題（3） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第11回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークに関する情報収集。（120） 復習（時間）：フィールドワークに関する振り返り。（120） 第12回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークに関する情報収集。（120） 復習（時間）：フィールドワークに関する振り返り。（120） 第13回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークに関する情報収集。（120） 復習（時間）：フィールドワークに関する振り返り。（120） 第14回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークに関する情報収集。（120） 復習（時間）：フィールドワークに関する振り返り。（120） 第15回 総括（ふりかえり） 予習（時間）：これまでの資料やノートを読み直す。（120） 復習（時間）：最終レポート作成の準備。（120）
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	DP（商学部）の3項目を意識した科目となっている。 2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢 3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力 4. 大学での学びを地域に還元し、価値を創造する姿勢 【身に付くスキル】 課題解決力・協働力

到達目標	(1) 環境問題や資源問題を取り巻くの国内外の動向を理解するとともに、資源・エネルギー問題を通じて環境問題を多角的な視点から考察していくことができる。 (2) 自分の眼と耳と足で情報を探して作りだし、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術の習得することができる。 (3) ワークショップやグループワークなどの協働作業を通じて、問題認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成することができる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	リアクションペーパーや課題等については全体的な注意点などを授業内で解説する。
履修上の注意	(1) この授業は一方的な講義形式だけではなく、受講生同士の対話の時間を積極的に持つワークショップ形式の授業を展開していく。授業を通じて気づいたことを、第三者と話すという行動を通じて自らが考え・学ぶというスタイルのため、日常的に新聞・テレビ・インターネットを通じた情報収集をするなど、主体的・能動的な姿勢が求められる。 (2) 進捗状況によって授業内容を組み替える可能性もある。 (3) 授業の一環として群馬県内にある企業の工場見学（2018年度は大塚製薬高崎工場）や本講義に関係する地域のフィールドワーク（2019年度は八ッ場ダム）を土曜ないし日曜に実施することを計画している。日程については現在調整中のため、授業内で指示を出す。交通費などフィールドワークにかかる費用は実費自己負担とする（大型バスチャーターの場合は2,500～3,500円、受講者数によって変動あり）。この調査活動は授業時間として充当する。その後、各自が補助的に実施する調査活動については予習・復習の時間内の活動として扱う。 (4) 後半にゲスト講師による講義を計画している。日程については現在調整中であるが、状況によってはスケジュールが前後する可能性もある。
成績評価の方法・基準	期末試験は行わず、中間レポート（800～1,200字程度）および最終レポート（1,200～2,000字程度）の提出を求める。また毎回の授業後にリアクションペーパー（小テストを含む場合もある）の提出を求める。評価基準は学修意欲：40%、中間レポート：20%、最終レポート：40%、で総合的に判断する。 〔注意〕中間レポートおよび最終レポートの提出がない場合は評価対象外とする。
教科書	
参考書・教材	【参考書】『改訂7版 環境社会検定試験eco検定公式テキスト』 ISBN番号：978-4820759522 著者名：東京商工会議所編著 出版社：日本能率協会マネジメントセンター 発行年：2019年 価格：2860円（4月までに新版が出る可能性もある） 【教材】参考文献については授業中に適宜紹介していく。これ以外の参考文献として、書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・ウェブサイトなど、身の回りにある情報源から関連する事柄を幅広く取り上げていく。紹介する事例によっては、ビデオやDVDなども用いる。また必要に応じて、参考資料を配付する。
備考	講義科目 2020年度は5、7、9回を課題研究として学修する。 第5回では、これまでの授業の内容を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第4回の授業で指示を出す。全体で330分の学修を想定している。 第7回では、これまでの授業の内容（特に第6回と第7回）を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第6回の授業で指示を出す。全体で330分の学修を想定している。 第9回では、これまでの授業の内容（特に第8回）を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第8回の授業で指示を出す。全体で330分の学修を想定している。 「成績評価の方法・基準」欄にある「中間レポート」は、ここで示す課題研究のレポートを充当する。実施方法の詳細については、第1回で概要を説明する。
教員との連絡方法	基本的にメールを用いる。授業用アドレスは授業内で告知する。